

# 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)策定のための調査 高齢者福祉に関する多様な世代への調査 (LINE アンケート)

## —まとめ—

### 1 目的

- ・ 人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる地域共生社会の実現が求められている中、高齢者福祉に関して高齢者以外の年代の市民の意見を聞き、施策に反映させることは、そうした世代や分野を超えたつながりを作るひとつのきっかけとなる。
- ・ そこで、広く利用されている西東京市 LINE を活用し、市民の自発的な協力で高齢者福祉に関するアンケートを実施し、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の参考とする。

### 2 対象

- ・ 西東京市公式 LINE に登録している市民等

### 3 方法

- ・ LINE アンケート

### 4 調査項目

【属性】(1) 性別

(2) 年齢

(3) 住まい(市内・市外)

【質問】(4) 介護や育児をしている家族や親せきについて

(5) 地域活動でできるもの(選択肢から選択)

(6) 今後地域でやってみたいこと(選択肢から選択)

(7) 高齢者が生き生き暮らすために必要なこと(自由記述)

### 5 調査期間

令和5年7月5日(水)～10月31日(火)

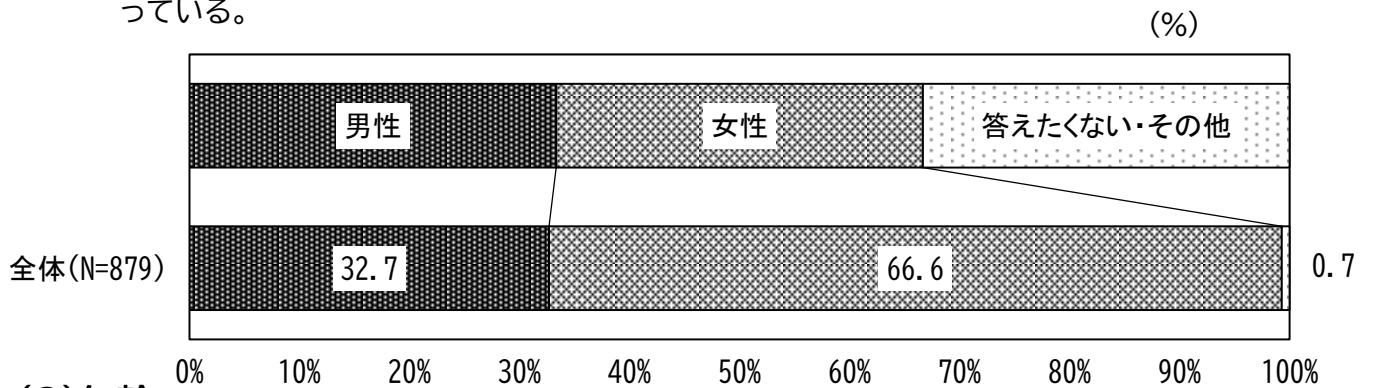
### 6 回答数 (10月分は整理中のため9月末現在)

879件

## 7 調査結果

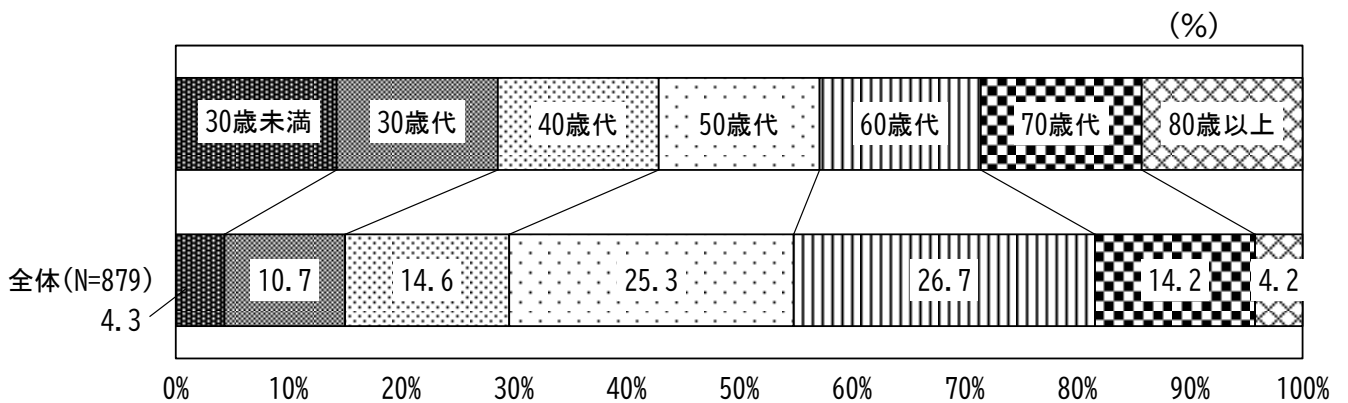
### (1)性別

- 回答者の性別は、「女性」が 66.6%、「男性」が 32.7%、「答えたくない・その他」が 0.7%となっている。



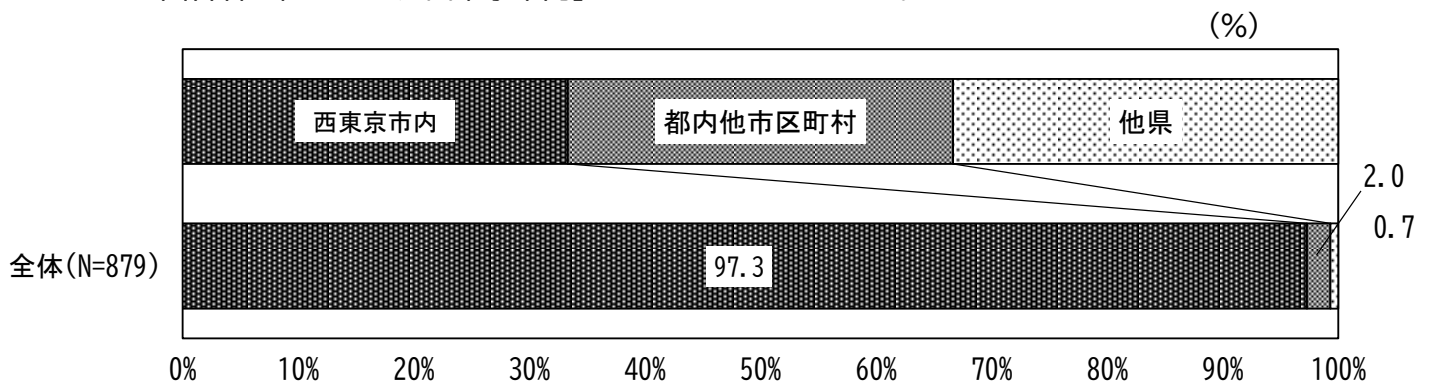
### (2)年齢

- 回答者の年齢は、「60歳代」が 26.7%、「50歳代」が 25.3%であり、合わせた割合はほぼ半数となっている。
- 「30歳未満」から「40歳代」までの割合をあわせて 29.6%となっている。



### (3)住まい(市内・市外)

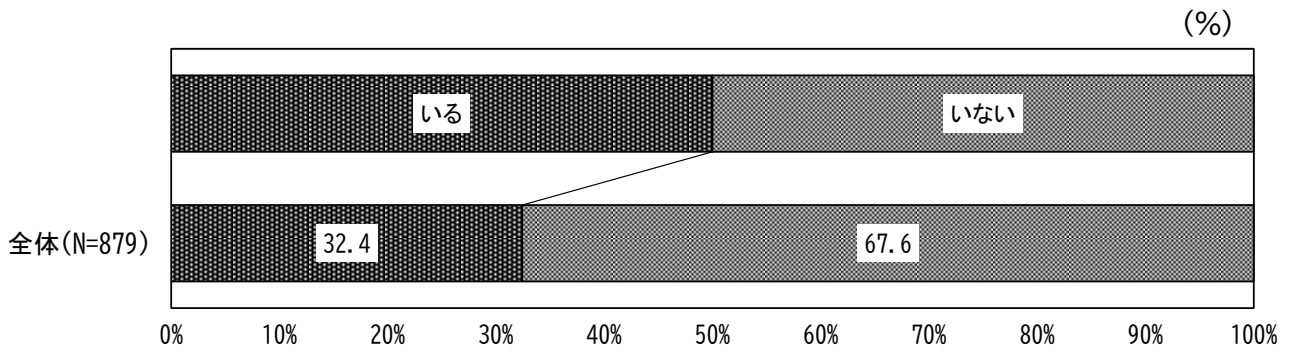
- 回答者の住まいは、「西東京市内」が 97.3%となっている。



#### (4) 介護や育児をしている家族や親せきについて

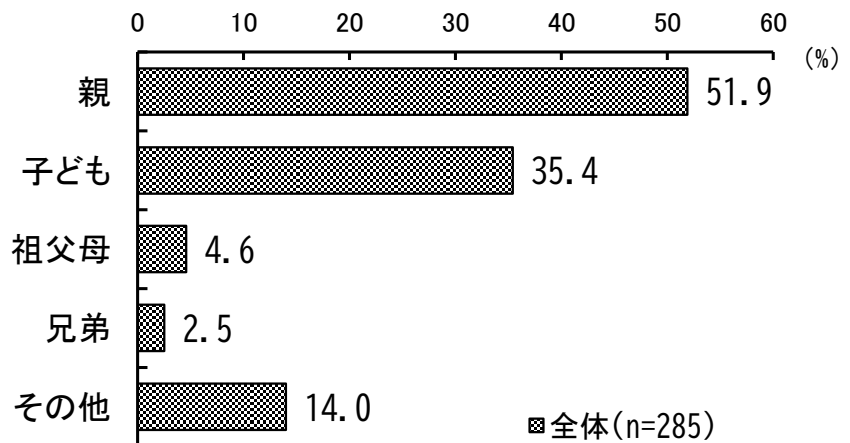
##### ① 介護や育児をしている家族や親せきの有無

- ・ 介護や育児をしている家族や親せきは、「いる」が 32.4%(285 人)である。



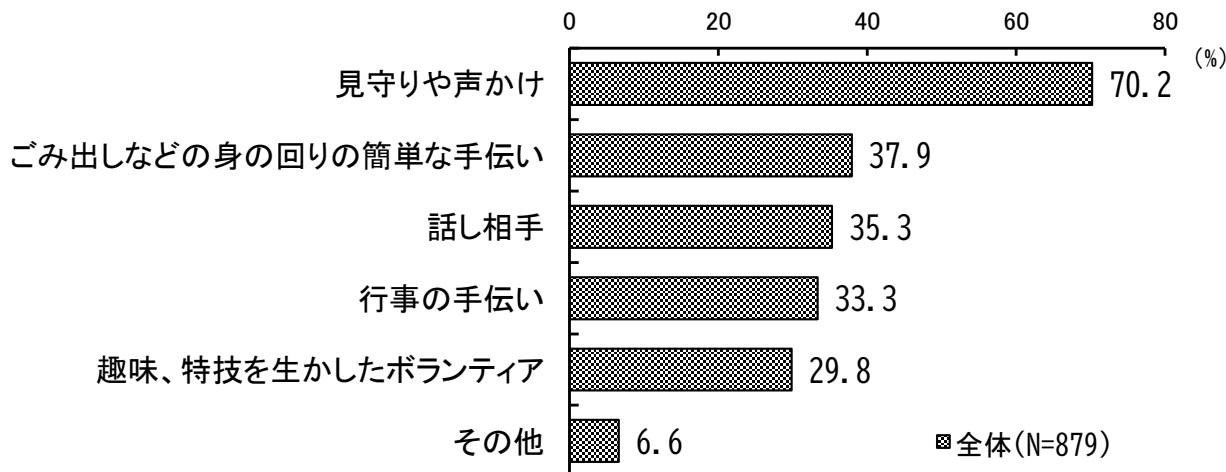
##### ② どなたの介護・育児か(該当する人すべて)

- ・ 介護や育児をしている家族や親せきが「いる」人(285人)のうち、介護・育児をしている対象は、「親」が 51.9%、「子ども」が 35.4%、「祖父母」が 4.6%、「兄弟」が 2.5%となっている。  
※その他のデータはなし



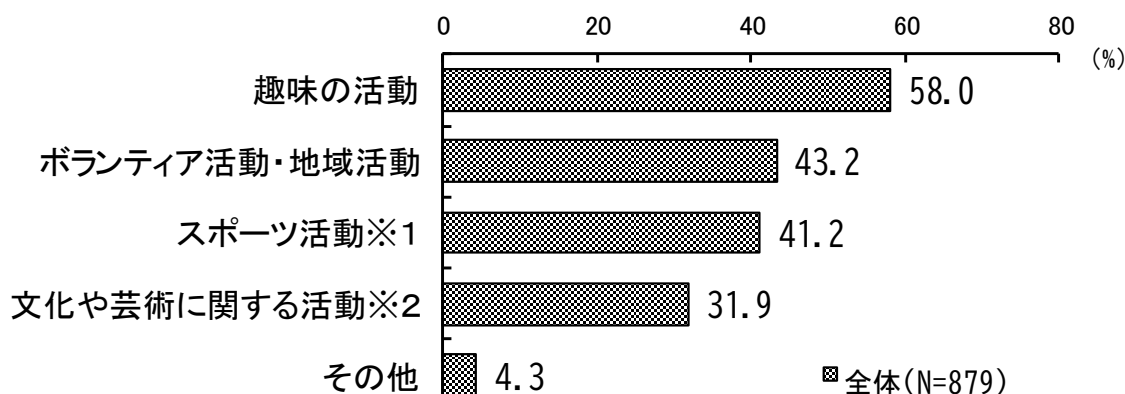
## (5)地域活動でできるもの

- 地域活動でできるものは、「見守りや声かけ」が 70.2%で最も多くなっている。「ごみ出しなどの身の回りの簡単な手伝い」が 37.9%、「話し相手」が 35.3%、「行事の手伝い」が 33.3%、「趣味、特技を生かしたボランティア」が 29.8%となっている。
- 「その他」としては、「囲碁の相手、英語翻訳、科学館展示案内」、「室内の家具の移動、エアコン掃除等の本人では無理なこと」、「自分はできないが、周りは雪かきなどができる」、「小中学生の勉強のお手伝い」などがあつた。



## (6)地域でやってみたいと思うこと

- 地域でやってみたいと思うことは、「趣味の活動」が 58.0%であり、「ボランティア活動・地域活動」が 43.2%、「スポーツ活動」が 41.2%、「文化や芸術に関する活動」が 31.9%となっている。
- 「その他」の内容としては、「街歩き(行った事のないお店を利用する)、散策」、「街の歴史を調べる」、「犬などのペットを飼う人たちのコミュニティ」などがあげられている。



※1 スポーツ活動にはアウトドアやeスポーツを含む

※2 文化は書道、俳句等、芸術は絵画、美術鑑賞等

## (7)高齢者が生き生き暮らすために必要なこと(自由記述)

・20 歳代、30 歳代、40 歳代の方から、多数の回答が寄せられた。その一部を紹介する。

(原文のまま)

### 【20 歳代の回答】

○若者世代との交流の場の提供

○1人で家の中にいるだけでは活力が湧かないと思うので、同世代や若い人たちと繋がるのが大切

○つながりを持つためにさまざまな機会が必要。高齢者が得意なことを若い世代に教える会を開く

(書道や着付け、茶道、そろばん、武道(剣道、合気道、弓道など))

○健康診断等による病気の事前予防、生活困窮者への金銭的な支援

○地域の福祉サービスの活性化とその周知(介護保険制度を知らない、詳しくない人が多いため)

○デイサービスのサービス向上に向けた支援(助成金や加算取得の促進等)

○地域の方々との交流の場を増やす

○孤独感を感じさせないこと

○継続的な人との繋がり

○地域全体でのサポート

○孤立しないこと。ポストに大量のチラシが投函されてたりや、おかしいなと気づいた時には声かけができる街づくりがあればなと思います

○ボランティア活動などを通して地域とのつながりを保つ

○若い人とのつながりが薄いように感じます

○学童クラブや地域で過ごしている子どもたちの居場所と高齢者が同じ空間で過ごすことのできる場を作る

○高齢者も子どもと遊んだりできるし、子どもは昔遊びなどを教えてもらえる場になる。それに加え、地域で子どもを見守るということにも繋がるように思う

○地域との連携、支援(金、もの、移動手段など)

○高齢者参加のイベント主催(運動など)

○駅やお店のバリアフリー。ベビーカーと高齢者でエレベーターを奪い合わなくて済むように段差や階段をなくしてほしい

○公民館等の地域で高齢者が集まってコミュニティを築ける場所の増設及びその施設でのイベント開催

○インフラ整備。医療、介護の充実

○高齢者と近所の多様な世代が定期的に顔を合わせて共通の作業(遊び、ボランティア、行事など何か)に取り組められる場があること

### 【30 歳代の回答】

○地域と繋がりを持ち続ける、孤独にならない

○高齢者向けのサービスを充実させても、本人に届かないと意味がない。今の高齢者は、どのようなツールから情報を得ているのか調査して、適切な情報発信するのが良いと思う

○80代以上はアナログ(新聞や手紙)中心かもしれないが、70代くらいだとデジタルツールに慣れてる人も

いると思います

- 高齢者が趣味やおしゃべり等で集まれる場所を作ったり、働きたい高齢者向けに働ける場所を提供する。地域の様々な年代との交流ができる場所をつくる
- 食住の心配なく生活できること
- 自力での生活が困難な場合に、拒否されることなく行政サポートが受けられること
- 外出すること
- 家庭外でコミュニケーション取ること、近所でのイベント参加
- 高齢者本人が適切な、適正の合う情報を的確に知れて、選択し、行動する一連の流れに、家族か福祉事業者、公的機関が程よくサポートすること
- 高齢者本人が自分の現状、悩み、得意なこと、苦手なこと、改善した方が良いことを理解すること、その理解するための機会を周りが作ること
- 移動手段の確保
- デイサービスなどの介護施設などの活用、ご近所での交流会とか
- 外・社会と何かしら繋がりを持つ。孤独にならないようにしてあげる
- 予防と生きがいやりがいを持つこと。高齢者本人が健康を維持する気持ちやそれをサポートする場所の提供。買い物や受診など移動等への支援
- 高齢者だけでなく、全世帯が豊かになる施策を実行してください。
- 実際高齢者は、近所など周囲とのコミュニケーションが必要だと思うが、自分たちの生活がいっぱいいっぱいなので近所の高齢者の方々に気を回す余裕がない。
- 市内の犯罪も多いので、やたらに声もかけられない。畑での農作業体験等で、地域の人と繋がる
- 歩道にベンチを設け、散歩の途中に気軽に座れる場を作る
- はなバスの停留所付近にベンチを設ける
- 1人で外出した時に、地域の人が手を差し伸べ助けてくれるような環境を整えることが必要だと思います
- 社会的つながり、地域の人たちとの横のつながり、安心安全な環境づくり
- 安全な歩道。気軽に安く通える場所。便利な買い物エリア
- 筋トレ事業
- 趣味サークル、高齢者自身が希望して参加することだと思います
- 金銭的な支援
- コミュニティの場を増やして孤立させない事
- 高齢者が孤独にならないよう、地域の人や役所の人が適度な関わりを持つシステムを作ることだと思います
- 話好きで友だちが多かったり、イベントに積極的に参加するような高齢者は心配ないと思いますが、人との関わりが苦手だったり、関わり方が分からない高齢者は孤独になりがちで、そういった人は今後増えるはずです
- 住んでいる地域での繋がりや生活にかかる全てにおいて簡単に相談出来るコンタクト先
- 不安なことがあったときに、すぐに駆け込める場所を明確にすること
- むだに病院に行かず、適度な運動、質素な食事、たくさん笑って過ごせますように
- 外出で楽しむ、交流の場を設ける、包括センターの市民把握はもちろん必要だと思う

## 【40 歳代の回答】

- 高齢者を孤立させないよう、寄り添っていくことが大切だと思います。
- 困った時に気軽に話をできる環境
- 社会との繋がりの中で、自分の役割があること。尊厳につながる
- 病院の言うことを聞きすぎずに、好きなように生きる。テレビの健康番組をあてにしすぎない
- 必要とされる仕事、ボランティア活動をどんどん増やして、生きている実感のある環境を作る。元気な方には経験を生かしたカルチャーセンター的なものでの活動、子供達の見守りなどのボランティアで地域と繋がりなど、世代間交流が出来たら良いと思います
- 信頼関係
- 聞く力
- 相手を思うこと
- 自分の気持ちを言う
- 家族以外の他者との関わり
- 特に高齢男性は孤独になりやすいので、市で何かあるとよい
- 孤立させない
- 先の回答と重複しますが、自分だけ助けてもらおうと思うのではなく、まずは周りを助けること。上から目線とか、昔はこうだったとか、自分はこうしてた、といった物言いは若者や子育て世帯が受け入れにくいことを理解して、日頃から周りに優しく接することだと思います
- 近所に 86 歳の方が住んでいますが、その方は子ども達に優しく、いつもにこにこ通学路を見守ってくれているので、困ったこと(植木の剪定、粗大ゴミの処分や移動、家の前の掃除など)は快く相談に応じています。その方のような高齢者が西東京市全体に住んでいたら、素晴らしい
- 高齢者に対する定期的な見守り、相談、集いの場所の提供、高齢者専用のバスやタクシーの利用提供など
- 孤立しない、させないための社会の取り組み
- 地域での見守り
- 安心して暮らすことができる保障の仕組み
- 年齢に関係なく何でも相談できる身近な保健室的な場所
- 公民館がそうなると思う
- ヘルパーとして働ける人を増やして行く。(賃金を上げる)
- コミュニケーションだと思います。何か外に出て人と会話する。それだけで良いと思います。特に 1 人暮らしの人には必要
- 歩道や、シニアカーの走行できる道をきちんと整備してほしい
- 散歩がしやすい道路
- 室内でゆったりと自由に過ごせる場所
- 働きたいと思っている方が働けるような社会づくり
- 普段から参加できる憩いの場があること。また、そこで 1 食でも栄養バランスのとれた食事を複数人で食べる  
ことができること

- なにか困った時にすぐ相談できる人が近くにいること、地域の中で独りぼっちにしないこと
- 保育園や学校、会社等、簡単にできる仕事やボランティアがあると張り合いが出ると思います
- コロナによって人の内面が浮き彫りになった気がする。普通の人にはコロナに怯えて外出せず自粛し、変な人だけが「自分は敬老されるべき、敬われる存在だ」的に我が物顔で過ごしているように見える
- 役割を持つこと。仕事として周りの人の役に立つこと
- 高齢者のカフェみたいに同じくらいの歳の方々が集まれる場があるとよいと思う。話し相手がいるだけでも毎日楽しくなるのではないのでしょうか
- 困ったことがある時に気軽に相談できる環境
- 人と関われる環境を作ること。自分の両親が引きこもり気味だったので、そう感じました
- たくさん貯蓄がなくても受けられる介護などのサポートがあると安心
- 自分が得意なことを生かした活動をするなど、社会貢献しているという達成感が得られること
- ネットを使えるようにするだけで行動に幅が広がると思います。逆に使う気のない人は自己責任
- 無理の無い運動やいろんな人と接して刺激を得られるようにしていく
- いろんな世代と日常的に交流できる仕組み
- わざわざイベントを催すのではなく、ふつうに生活する中で自然とできたらいいと思う
- たぶん世代によって生活リズムがぜんぜん違うので、高齢者に限らず、自分と違う世代と交わる機会がない
- 例えば学童保育や延長保育で高齢者と過ごすとか
- 市が率先して高齢者が主役となるようなイベントを定期的に行う
- 行政のサポート。特に高齢者宅を把握し、定期的に訪問するなど現状把握と必要なサポートを提供出来るようにするなど、密接したサポートが必要ではないのでしょうか
- 孤独にならないようなちょっとした繋がりやお互いが負担にならないお手伝い
- 同じ趣味や地域活動につながる拠点等、サードプレイスの充実
- 他者とのかわりを持てるように地域でサポートする
- 以前住んでいた地域では、各コミュニティセンターや生涯学習センター、または市などの単位で数多くの生涯学習が実施されていました。毎日のように何らかの講座がありました
- 30代、40代、50代の人たちが、今の高齢者の姿から多くを学ぶことが必要。歳を重ねること、老いることを自分の事として考える
- 今の高齢者は前例の無い高齢化社会を迎え、自分たちがどうなるのかわからなかった。これから高齢者になる人たちは、前例から学ぶ事でどんな高齢者になりたいのか、自分の人生をどう過ごしたいのか、を考える事で、いきいきと暮らせるのではないか
- ご近所さんとの繋がり。普段から挨拶や交流
- 遊び=子ども、ではなく大人も遊べる環境。大人になっても【面白い事】は活力になると思う
- 柳沢都営団地では、1階に自治会で使える部屋あり。夏場は冷房をつけ、無料で開放しており、人が自然と集まり老人のコミュニティができていた、麻雀やカラオケなども盛んだった(コロナ前)
- 短時間労働 無理のない範囲で社会的貢献度を上げる 施設、職場の拡充

以上